

屋外貯蔵タンクの側板からの流出事故概要（通常運転時）

No.	発生年月日	許可容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	要因	設置年月日	経過年	腐食面	腐食部位	屋根形式	被害範囲	流出量 (kℓ)	事 故 概 要
4	1974/10/31	不明	硫酸	側板母材部	腐食開孔	不明	不明	内面	不明	固定屋根式	防油堤内	0.0001	工場排水処理設備の一施設第6類濃硫酸屋外タンク貯蔵所の胴板と屋根板の締め付け部より雨水が侵入し胴板内部に沿ってタンク内濃硫酸液面に到達。そこで希釈され胴板（SS41、3.2mm）に反応し腐食が起こり胴板に穴をあけた。タンク内濃硫酸 100mL が漏えいしたもの。
9	1975/04/01	3,350	重油	側板母材部	腐食開孔	不明	不明	外面	保温材	不明	敷地内	0.1	屋外タンク貯蔵所（3350キロリットル）へタンカーよりの注油作業終了後、作業員が保温材カバーに重油が流れ出しているのを発見し調べたところ、雨水等がタンク側板と保温材のすきまから入りこみ、保温材カバー支持材部分にたまり、タンク側板を腐食開孔させ重油50リットルが漏えいしたものと判明。
13	1975/09/12	不明	塩酸	側板母材部	腐食開孔	1973 6.25	2.2	内面	不明	固定屋根式	敷地内	0.1	当該屋外貯蔵タンク内面はゴムライニングがされており、設置当時より塩酸が貯蔵されていたものと推定される。設置以後2年あまりの間にゴムライニングが劣化し、短期間のうちにタンク側板が腐食し、漏えいしたもの。隣接する事業所の警備員が白煙を発見し通報したもの。
14	1975/09/20	1,084	A重油	側板溶接部	腐食開孔	不明	不明	不明	—	固定屋根式	防油堤内	0.2	屋外タンク貯蔵所（1084キロリットル）の底板から上部側板の溶接部に穴が空き、防油堤内に重油約200リットルが漏えい。
20- 1	1977/03/17	不明	酢酸	側板母材部	腐食開孔	不明	不明	外面	保温材	不明	防油堤内	0.06	屋外タンク貯蔵所の側板に取付けた予備ノズル付近の保温材中から酢酸60リットルが漏出していたため、保温材をはく離して調査したところ、予備ノズル上面に腐食孔が発見され、タンク外面の屋根板及び側板ともに多数の腐食箇所が認められたことから、保温材中に浸透した雨水に保温材中から溶出したNa分及びCa分によるアルカリ腐食と、ハードセメントに施した鉄鋼とタンク材又は雨水中に含有するF i 3 rとの間に生じた電気腐食が相乗して急速に腐食開孔が進行したものと推定。
20- 2	1977/03/22	不明	酢酸	側板母材部	腐食開孔	不明	不明	外面	保温材	不明	防油堤内	微量	漏洩事故発生屋外タンク貯蔵所に隣接する屋外タンク貯蔵所を点検中、側板に取り付けた温度計ノズル上端に腐食孔が発生し、酢酸が滴状で漏出しているのを発見し、保温材はく離の調査を行ったところ、タンク外面に多数の腐食箇所が認められ、保温材中のアルカリ溶出によるアルカリ腐食と保温材止めのラス網との間に生ずる電気腐食の競合により生じたものと推定。
24	1978/05/15	4,740	重油	側板母材部	腐食開孔	不明	不明	外面	保温材	不明	敷地内	0.04	定期パトロール中に屋外タンク貯蔵所（4740キロリットル）の側板より重油が漏えいしているのを発見、保温材ウレタンフォームを除去し、外部検査の結果、側板の腐食開孔による重油40リットルの漏えいと判明。
32	1979/11/24	不明	第1石油類	側板母材部	腐食開孔	不明	不明	不明	—	不明	敷地内	0.2	タンクヤード見廻り中の海上防災要員が、タンクの原油受入配管口下部より、原油がしみ出ているのを発見、タンク側板の腐食開孔によるものと判明。
37	1980/06/12	不明	ポリブデン	側板母材部	腐食開孔	不明	不明	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	不明	ポリブデン製造所より当該タンクへポリブデンを受け入れた。6月12日より他のタンクへ移送を開始し、移送状況の確認のため圧力を作業員が確認したところ異常はなかった。次に作業員が移送先のタンク液面を確認をするために発災タンクから40～50m離れたところ、タンク屋根が吹き飛びタンク内で炎上した。タンク側板上部が腐食し、保温材にしみこみ、危険物が炭化され蓄熱により発災タンク内部の可燃性ガスに引火したと推定。
41	1980/08/09	不明	ミナス重油	側板母材部	腐食開孔	不明	不明	外面	付属物	不明	敷地内	1.6	ミナス重油を屋外タンク貯蔵所へ落油終了後、側板の腐食開孔により、側板ウィンドガーター最下段からウィンドガーターを伝わりミナス重油1600リットルが漏えいしているのを発見。
46	1981/06/22	不明	C重油	側板母材部	腐食開孔	不明	不明	外面	保温材	不明	敷地内	0.0002	終業時巡回点検中の従業員が、屋外タンク貯蔵所の外装鉄板に若干の油こんを発見し、監視を続けていたところ、常状に垂れ下ったため、外装鉄板及び保温材をはく離して点検した結果、底板から高さ12メートルと14.24メートルのケレンした位置に小孔を確認。
47	1981/08/06	28	A重油	側板溶接部	腐食開孔	1978 3.18	3.4	外面	保温材	固定屋根式	敷地内	0.001	屋外タンク貯蔵所（28キロリットル）は海に近いため、塩分を含んだ風雨等が板トタンの一部から侵入しており、保温材を撤去したところ、タンクの約60パーセント以上が腐食し、ダイヤル式液位指示計を固定してある支持アームのタンク溶接部分が、溶接時に発生したピンホールに外部から侵入した雨水等により腐食開孔し、A重油10リットルが漏えい。
48	1981/09/01	4,655	C重油	側板溶接部	腐食開孔	1972 2.21	9.5	外面	保温材	不明	敷地内	0.0195	巡回中、屋外タンク貯蔵所（4655キロリットル）の側板から保温材（ウレタン）を通して重油が漏えいしているのを発見し、調べたところ、タンク側板の溶接部のピンホール部からC重油19.5リットルが漏えいしたものと判明。
51	1982/07/01	140	メタノール	側板母材部	腐食開孔	1970 7.22	11.9	外面	保温材	固定屋根式	敷地内	不明	屋外タンク貯蔵所の点検中、タンク下部がぬれているのを発見し保冷材を除去したところ、タンク本体に取り付けられている配管サポート部と断熱材のすきまから雨水が浸入して腐食し、減肉するとともに、配管の伸縮、振動等によりサポート直近部の側板に応力割れが生じメタノールが漏えいしたものと判明。

No.	発生年月日	許容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	要因	設置年月日	経過年	腐食面	腐食部位	屋根形式	被害範囲	流出量 (kℓ)	事 故 概 要
63	1985/08/23	2,000	クレオソート油	側板母材部	腐食開孔	1980 5.7	5.3	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	1.0	屋外タンク貯蔵所の側板が、ウインドガーター上の塩水及び雨水の溜まりに加え、内容物を保温していた温度条件による外部腐食により開孔し、クレオソート油約1000リットルが防油堤内へ流出。
71	1987/09/08	20	脱硫C重油	側板母材部	腐食開孔	1970 10.7	16.9	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	10.4	タンク保温を底板部まで施工し、密閉化していたため、湿気により全周に腐食が発生し、タンク表面の温度変化により保温層とタンク表面間の空気中水分が結露して腐食発生等により、脱硫C重油約10.4キロリットルが防油堤内へ漏えい。
74	1988/08/26	2,000	重油	側板母材部	腐食開孔	1968 7.18	20.1	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.2	屋外タンク貯蔵所の階段において油の付着を発見し、保温材を除去したところ、タンク側板が保温材に侵入した雨水により腐食開孔したため、重油200リットルの防油堤内への漏えいを確認。
77	1991/09/06	4	熔融硫黄	側板母材部	応力腐食割れ or 腐食	1969 9.10	23.0	不明	—	半地下式	構内	0.3	タンク側板上部が、異種金属の電位差か、硫化物による応力腐食により開孔していたところへ、ローリーからの受け入れにより、保温用コンクリートと補強用Cチャンネルの空洞部に流出し、コンクリートの亀裂部より熔融硫黄約500キログラムが漏えい。
78	1991/10/04	1,345	溶解硫黄	側板母材部	腐食開孔	1976 11.18	14.9	外面	保温材	固定屋根式	構内	43.7	受入れ作業中、タンク側板の経年による腐食劣化のため、液圧により側板が破損し、上部から溶解硫黄78トンが漏えい。
79	1992/07/29	40	重油	側板母材部	腐食開孔	1979 3.28	13.3	外面	付属物	固定屋根式	防油堤内	0.001	移動タンク貯蔵所より屋外タンク貯蔵所に補給終了後、屋外タンク側板中央部（液面覚知装置の背板）の防食塗装が十分でなく、設置場所が海岸沿いという環境下から、経年腐食で開孔し重油10リットルが漏油。
81	1992/11/24	1,750	ガソリン	側板母材部	腐食疲労	1961 12.6	31.0	外面	不明	固定屋根式	防油堤内	0.2	タンカーにより、屋外タンク貯蔵所へ荷揚げ後、内部油圧が上昇し、タンク側板に経年劣化による腐食疲労の亀裂が生じ、ガソリン約160リットルが防油堤内へ漏えい。
82	1994/07/01	50	軽油	側板母材部	腐食開孔	1973 11.29	20.6	外面	雨水侵入テープ	固定屋根式	タンク犬走り	0.0005	屋外貯蔵タンク側板一部を、ケレンしないままテーピングしたため、腐食開孔し、軽油が滲出屋外タンク貯蔵所の底板固定用アンカーボルトブラケット取付部の側板に、十分なケレンなしに底板雨水進入防止用のテープが張られたため、腐食開孔し、軽油が約0.5リットルが滲出。
84	1994/08/25	500	灯油	側板サポート取付け部	腐食開孔	1973 10.3	20.9	外面	付属物	固定屋根式	タンク犬走り	0.001	屋外貯蔵タンク側板液面計サポート取り付け部分が腐食開孔、灯油が漏えい屋外タンク貯蔵所の液面計ガイドパイプサポート取付け部の側板が、外面から腐食し、ピンホールが生じ、灯油1リットルが漏えい。
85	1995/01/07	420	A重油	側板母材部	腐食開孔	1967 12.22	27.0	不明	—	固定屋根式	被害なし	不明	地震により、屋外タンク貯蔵所、犬走りの亀裂及び側板腐食部から微量のA重油が滲出。
88	1995/05/18	10	重油	側板母材部	腐食開孔	1973 7.6	21.9	不明	—	固定屋根式	構外河川	8.5	屋外タンク貯蔵所のタンク側板に腐食による穴があき、重油約8,500リットルが漏えい、防油堤排水バルブを閉め忘れ、構外用水路に流出。
99	1999/01/15	54	軽油	側板母材部	腐食開孔	1972 9.2	26.4	不明	—	固定屋根式	海上	1.0	流出屋外タンク貯蔵所の下部側板に腐食孔が発生し、軽油約950リットルが、漏えい、一部は水路へ流出。
100	1999/05/21	1,450	ガソリン	側板母材部	腐食開孔	1972 11.13	26.5	外面	不明	内部浮き蓋式	防油堤内	0.003	外タンク側板に腐食による貫通孔が生じ、ガソリン約30リットルが流出。
102	1999/08/12	481	C重油	側板母材部	腐食開孔	1963 10.24	35.8	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.02	屋外タンク貯蔵所へタンカーから荷卸し、終了後の点検中、タンク側板と外部保温材間の腐食力所から、C重油約2リットルの防油堤内への漏えいを発見。
103	1999/10/11	2,160	C重油	側板母材部	腐食開孔	1972 10.5	27.0	外面	保温材	固定屋根式	構内	0.5	流出屋外タンク貯蔵所の側板上部に雨水侵入等経年劣化により、ピンホールができ、C重油約500リットルが漏えい。
105	2001/06/01	4,880	ガソリン	側板母材部	腐食開孔	1970 9.29	30.7	内面	気相部	内部浮き蓋式	1900/1/0	不明	ガソリンが白濁した状態で確認されたため、開放検査を実施したところ、4～9段目に腐食が発生しており、内部浮き蓋のデッキ上部にサビの堆積がみられた。側板7、8段目の溶接継ぎ手の上部に9箇所貫通孔。以下のメカニズムによると推定。 ①タンク内の気相部において温度差による結露が発生、滞留したことにより腐食が発生。 ②液面付近では、溶存酸素の濃度差による局部電池の可能性もある。 ③塩化物等による腐食イオン
107	2001/07/31	2,050	JETA-1	側板母材部	腐食開孔	1970 11.19	30.7	外面	塗装劣化	固定屋根式	防油堤内	0.1	屋外タンク貯蔵所塗装ケレンのためハンマーリングを行っていたところ、腐食減肉していた側板が開孔、ジェット燃料が流出タンクの外面塗装のため、塗装の一部をハンマーにて剥離していたところ、腐食減肉していた側板に貫通孔が生じタンク内のジェット燃料約50リットルが漏えい。
108	2001/08/15	15	重油	側板母材部	腐食開孔	1966 2.23	35.5	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.3	点検のためグラnderでサビ落としをしており、午後から作業を再開しようとしたところ側板最下段から重油が流出した。当該タンクは設置以来35年が経過しており、その間タンク本体について日常点検及び定期点検は行われていたが、サクションヒーター外筒に保温材が取り付けられていた箇所については点検されていなかった。そのため、側板に腐食が発生した。
109	2001/12/29	35,000	原油	側板母材部	腐食開孔	1969 4.10	32.7	外面	付属物	浮き屋根式	防油堤内	0.002	屋外タンク貯蔵所ウインドガーター一部に溜まる雨水等による腐食によりウインドガーター下部から原油20リットルが漏えいしたものと推定。

No.	発生年月日	許可容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	要因	設置年月日	経過年	腐食面	腐食部位	屋根形式	被害範囲	流出量 (kℓ)	事 故 概 要
111	2002/06/07	1,255	C重油	側板母材部	腐食開孔	1975 12.9	26.5	外面	保温材	固定屋根式	構内	0.005	従業員が、タンク側面より重油が滲み出ているのを発見し調べたところ、タンク本体保温の断熱材カバーの隙間から、雨水等が侵入し、長期間湿った状態となったため、タンク本体外面が腐食開孔し、C重油5リットルが滲出したものと確認。
112	2002/07/02	40,000	原油	側板母材部	腐食開孔	1971 5.26	31.1	外面	保温材	浮き屋根式	構内	不明	屋外タンク貯蔵所の保温外装板と中間ガーダ間のコーキングが劣化剥離し、隙間から保温内部に雨水等が侵入したことにより、側板が腐食開孔し、原油が滲出。
113	2002/09/05	500	C重油	側板母材部	腐食開孔	1970 10.27	31.9	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	2.0	従業員が巡回中に、屋外タンク貯蔵所側板最下部からC重油2000リットルが漏えいしているのを発見し調べたところ、タンク側板点検時、保温材を取り外していなかったため、側板最下段の腐食を見落とし、開孔し漏えいしたものと確認。
118	2003/03/20	57	重油	側板母材部	腐食開孔	1976 4.15	26.9	不明	—	固定屋根式	構内	0.2	従業員が当該タンクの側板最下段から、油の漏えいしているのを発見。経年劣化により腐食した側板に貫通口（直径2mm）が発生し漏えいしたものの。
119	2003/03/27	8	重油	側板母材部	腐食開孔	1991 9.4	12.6	外面	塗装劣化	固定屋根式	構内	0.1	タンクローリーから当該屋外タンクに荷卸し作業中、タンク側板の腐食部分に圧力がかかり、ピンホール状の穴が開き、重油が50～60リットル漏えい。日常点検の際、腐食部分は発見されており、屋外タンクの取り替えを計画中であったが、腐食が進み漏えい事故に至る。
123	2003/12/15	2,330	重油	側板母材部	腐食開孔	1968 9.18	35.2	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.04	側板6段目（高さ約10m部分）より、C重油が約40リットル漏えい。保温材に雨水が浸入、滞留し、側板が腐食し、ピンホール（直径2mm）が発生したものの。
125	2004/07/22	7,830	重油	側板母材部	腐食開孔	1980 10.21	23.8	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.045	従業員が構内パトロール中にウインドガーター部周辺から、C重油が漏えいし防油堤内に飛散しているのを発見。漏えい量は45リットル。保温材外装板とトップアングルとの隙間から、雨水が保温材内部に浸入し、側板を腐食開口させ、漏えいに至ったものと推定。また、ウインドガーター上に溜まった雨水が、ウインドガーター上の保温材固定用鋼板のスリットを通して側板側に浸入、側板を腐食開口させ、漏えいに至ったものと推定。
126	2005/01/06	28	重油	側板母材部	腐食開孔	1968 12.27	36.0	外面	不明	固定屋根式	防油堤内	0.4	タンクの外面の塗装をするため、錆落とし作業中に金属へらを使用し錆を取り除いたところ、腐食減肉していた側板に貫通孔が生じ、防油堤内に重油約400リットルが漏えい。
127	2005/05/26	10	重油	側板母材部	腐食開孔	1976 11.2	28.6	外面	不明	固定屋根式	防油堤内	0.001	タンク側板に数か所できていた底部付近のサビを金ブラシで削りおとしていたところ、タンクに約1mmの小さな穴があきA重油漏えいしたものの。
128	2005/07/01	1,680	重油	側板溶接部	腐食開孔	1969 3.27	36.3	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.1	屋外タンクにてC重油を貯蔵中タンク側板保温材外装板表面に重油が漏えいしたものの。
129	2005/09/15	12,000	軽油	側板母材部	腐食開孔	1972 12.27	32.7	内面	気相部	固定屋根式	防油堤内	0.2	内道路を通りかかった協力会社員がタンク側板上部2箇所から液体が放射線状に噴出し、霧状に飛散しているのを発見。昭和63年3月の開放検査時に側板10段目の減肉が認められたため、防食対策としてトップアングル下2,500mmの範囲全周にガラスフレークコーティングを施工。事故後の調査では、トップアングル下2,100mmの範囲は健全だったが、残り400mmは全周にわたり剥離脱落。貫通孔が発生した側板の腐食減肉範囲はこの範囲と一致。この範囲の塗膜は、標準膜厚を下回っていた。以上の状況から、次の過程によるものと推定。①不完全なコーティング施工。②タンク頂部に結露による腐食促進物（硫黄化合物）を濃縮した凝縮液が発生。③塗膜コーティングからの凝縮液の浸透と湿潤環境の持続。④塗膜コーティング下端部から通気差腐食（酸素濃淡電池腐食）が発生。⑤日照によるタンク気相部の温度上昇と腐食の進行。
130	2005/09/21	7,000	重油	側板母材部	腐食開孔	1959 4.3	46.5	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.1	タンカーからC重油を2,000kℓを受け入れ中、屋外タンクのウインドガーター付近の保温材下層からC重油が漏えいしているのを発見。保温材カバーとウインドガーターの隙間に浸入した雨水によってタンク側板が腐食進行し開口に至った。
131	2005/11/14	620	メチルイソブチル ケトン	側板母材部	腐食開孔	1970 2.12	35.8	内面	液相部	固定屋根式	防油堤内	0.003	タンクの側板中段（底板から5,150mm）より危険物が少量漏えいしているのを、当タンクの塗装作業をしていた作業員が発見した。平成11年の開放検査において極端な腐食は認められておらず、何らかの原因により腐食が急速に進行開孔したものの。タンクの構造上、タンク内部の補強用アングルの取付用当て板がタッパ溶接で取付られており、当て板内部に危険物が滞留する構造であり、また当て板の内部が点検できない状況であった。
132	2005/11/22	620	酢酸ブチル	側板母材部	腐食開孔	1970 1.27	35.8	外面	塗装劣化	固定屋根式	防油堤内	不明	タンクの側板で部分的に錆が生じた箇所の（底板から3,000mm）の塗装補修を実施中、当該箇所から貯蔵する酢酸ブチルが微量ののにじみが発生。
137	2006/07/01	15	重油	側板母材部	腐食開孔	1977 2.18	29.4	不明	—	固定屋根式	水田	1.2	タンクの側板に直径6mmの穴が開き重油が流出。防油堤の水抜きバルブが開いており事業所内及び事業所外へ流出。タンクの側板に直径6mmの穴が開き重油が流出。防油堤の水抜きバルブが開いており事業所内及び事業所外へ流出。
138	2006/07/06	24,250	軽油	側板母材部	腐食開孔	1971 12.27	34.5	不明	—	固定屋根式	防油堤内	不明	消防職員が別件で立ち寄った際に、側板からの漏えいを発見。

No.	発生年月日	許可容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	要因	設置年月日	経過年	腐食面	腐食部位	屋根形式	被害範囲	流出量 (kℓ)	事 故 概 要
140	2006/08/01	9,950	重油	側板母材部	腐食開孔	1972 3.4	34.4	外面	付属物	固定屋根式	防油堤内	不明	タンク側板のウインドガーター付近の塗装が劣化し、雨水が滞留して、側板が腐食し、貫通に至った。 検査管理が不十分のため腐食漏えいを見逃した。
141	2006/08/10	5,060	ガソリン	側板母材部	腐食開孔	1972 3.4	34.4	不明	—	浮き屋根式	構内	不明	陸上出荷中、点検検査員が、側板からの漏えいを発見。
143	2007/04/01	200	重油	底板・側板溶接部	腐食開孔	1978 6.19	28.8	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.002	タンクの側板下部付近の腐食部分から、重油約20リットルが漏えい。 保温材外装板内に雨水等が浸入し滞留。
144	2007/05/13	200	スラッジ	側板母材部	腐食開孔	1973 12.17	33.4	内面	気相部	固定屋根式	防油堤内	不明	当該スラッジタンクへの油汲み上げを実施後、タンク側板の液面軽サポート付近から油の漏えいを確認。漏えい時の滞留量は220kℓで、取扱数量を超過。 タンク内面気相部が、腐食生成分（微量の硫化水素など）により腐食減肉しており、更に取扱数量以上に回収したために、腐食減肉した部位以上に油面が達し、開口・漏えいした。
145	2007/11/26	53,620	ガソリン	側板母材部	腐食開孔	1974 10.15	33.1	外面	付属物	浮き屋根式	防油堤内	0.012	パトロール員がタンク側板からの油滲みを発見。ウインドガーター及び強め輪本体の一部に雨水の溜まりがあり、かつ、塗装が劣化した箇所において繰り返し外面腐食が進行したことにより鉄錆層が生成し、今回の滲み発生場所で開孔に至ったものと推定。
147	2008/04/30	175.6	ポリエーテル	側板母材部	腐食開孔	1970 11.20	37.5	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	1.02	当該貯槽へ製品を移送後、当該貯槽のラッキングを伝い防油堤内への漏洩を発見。 当該貯槽外面へ浸入した雨水により側板外面が腐食減肉され、貫通し、当該貫通孔以上の高さに製品を送液したときに貫通孔より漏えいした。
149	2009/08/31	1,730	C重油	側板母材部	腐食開孔	1960 5.20	49.3	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.006	保温材をつけている屋外貯蔵タンクの泡消火設備点検架台のサポート取り付け付近から側板の外面腐食により開口して油が流出した。保温材の目地シール部の劣化により雨水等が保温材とタンクの間に侵入し、腐食開口した。保温材が側板にとりついていてため、目視点検では腐食開口したのを発見できなかった。また、流出量が少量ずつであったため、液面計でも流出を確認することができなかった。
150	2009/09/17	1.6	軽油	側板母材部	腐食開孔	1974 7.10	35.2	外面	付属物	固定屋根式	防油堤内	にじみ	立ち入り検査時において屋外タンクの側板のアングル溶接部に軽油のにじみが発見された。
152	2009/10/13	980	灯油	側板母材部	腐食開孔	1997 5.30	12.3	内面	気相部	内部浮き蓋式	防油堤内	にじみ	出荷準備のため屋外タンク貯蔵所のタンク元バルブ開放操作時、外灯による光反射でタンク側板2箇所より灯油の滲みを発見した。タンク内の油を抜き取り、滲み箇所の下まで液面をさげた。インナーフロートタンクであるため、特別通気口が設けられており、この通気口から塩分を含んだ潮風がタンク内に入り、側板内面を腐食させた。
155	2010/4/2	100	A重油	側板母材部	腐食開孔	1981 1.8	29.2	外面	塗装劣化	固定屋根式	防油堤内	0.02	側板腐食部分からA重油が滲みでていることを確認したため、タンク貯蔵量を流出箇所より下げた。タンク表面は塗装されていたが、塗料と鋼板の間には腐食による膨らみが多数あり、塗装等の補修方法が不適切であった可能性が高い。維持管理を行う際にさびを放置したまま上塗りを重ねたため、腐食が進行した。
158	2010/7/11	25,463	重油	側板母材部	腐食開孔	1970 6.11	40.1	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.03	巡回中、の運転員が屋外タンク貯蔵所の側板から油の流出を発見し計器室へ連絡した。 油を他のタンクへシフトして液面を下げることにより流出を止めた。 階段踊り場のサポート部より雨水が保温材に侵入し、腐食開口に至った
159	2010/10/3	997	重油	側板母材部	腐食開孔	1967 10.13	43	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.03	タンクの側板から油が流出したため、保温材を解体したところ、側板の外装材の雨仕舞不良箇所近傍に側板の減肉、開口が確認された。雨水が侵入したことによる湿食と推定される。
162	2010/5/31	495	重油	側板母材部	腐食開孔	1979 12.12	30.4	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.4	側板の腐食により、タンク側板の高さ5.4mの位置に開口が発生した。タンク基礎部に油が流出した。タンク外面は保温材で覆われており、雨水等の侵入によりタンク本体の腐食が進行し、側板から重油が流出した。
163	2010/9/7	50	重油	側板母材部	腐食開孔	1986 8.29	24	外面	保温材	固定屋根式	防油堤内	0.4	保温材へ雨水が侵入したことにより、側板と底板溶接部近傍に腐食によりピンホールが発生し、保温材及び基礎部分に油が流出。

注）緑色の行 ：特定屋外貯蔵タンクからの流出事故